

zei

madang

「日本は世界の中では税が低い」と聞いた。国内では減税減税と内閣が変わる度に問われているのに。ということなのだろうか。

一つは税の使われ方をクリアに提示していないからである。税とは国民一人一人からおさめられた国民の財産である。もしあなたがクレジットカードを落として知らぬ間に大金を記した明細書が送られてきたらどうだろうか。憤慨するであろう。それと同じである。その件は自分の過失でそうなったことだが、税金となると義務であり、納めていない人は催促の手紙が郵送される、公共のものが使えなくなるなどの処置になる。さらに対象が広くなるので何万倍にも怒りは膨れ上がるのだ。

二つ目に内閣が信用されていないからではないか。内閣が予算案を提出し国会で話し合われてやっと税の使い方が決められるのだが、そこに国民は全く関わらない。国民の投票によって決められる国会議員が代表として出席するのである。さらにその代表が内閣の顔ぶれだ。しかし選び抜かれた者が次々と不祥事を起こしてしまう。そしてドミノ式に内閣の信用が薄くなっていく。これはなぜか。偏に国民のみる目がないからである。「内閣はもう信用できませんね」とよく街頭調査で答える人がいるがそれは違う。「内閣」ではないのだ。「その議員に投票した自分」である。私から言わせてもらえば「勝手に内閣に罪をなすりつけないでくれ」。毎日記者に追っかけまわされ頭を痛める真面目な議員に謝っていただきたい。何も考えていず「テレビに出れる」と浮かれてばかりでそれを見ている正しい議員の心情を考えたことのない人の意見なぞ世論とは言わない。全ての事において言動には気をつけなくてはならない。これは国民にも議員にもいえることだ。しっかりと知った上で言っていただきたい。ニュースの政治面を見る度に心が痛む国民もいるのではないだろうか。

税について考えた事はあるだろうか。

両親からただ「税が高くてつらい」と聞いただけだろうか。

外に出ると道路があって、公園があって、子供たちが通う学校があって、公民館があて、図書館があって、交番があって、市役所があって――。私たちは生まれてすぐ出生届を出す。その時からもう税金のお世話になっている。その税金は誰からのかわからない。遠い昔の人だったり、今すれ違ったおじさんだったり。

そうして私達は大人になり、また誰かのために税金を納める。私達の税金が救うのは、遠い遠い国の貧しい子供達だったり、救急車で運ばれるおじいちゃんだったり、自分になるかもしれない。

税金を納める「義務」は人生を楽しむ「権利」である。納税という「鎖」は安心という「シートベルト」なのである。